

京大生、国有林で新旧の森林再生を学ぶ

8月5日、京都大学食料・環境経済学科2年生8名が、パイロットフォレストの森林造成と雷別自然再生事業地の森林再生を学びました。

パイロットフォレストでは、造成当時に使われた大型造林機械や30年前の記録映像から、10,000ヘクタールにも及ぶ森林造成の歴史や経験を学びました。その後、高さ24メートルの望楼から造成50年後の広大なカラマツ林を展望し、造成当時の苦勞を感じ取ったと思います。

雷別自然再生事業地では、トドマツ壮齢林の立枯れ跡地を郷土樹種であるミズナラやハルニレ、ヤチダモなどの広葉樹主体の森林へと再生していく手法を、パイロットフォレストの造成と比較しながら学びました。関西地方とは少し異なる自然環境での森林再生を知る良い機会になったと思います。



大型造林機械の展示



雷別自然再生事業地にて